

平成30年度

全国学力・学習状況調査

調査結果について

藤沢市教育委員会

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

平成30年4月、平成30年度全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

なお、国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 実施状況

(1) 調査実施日 平成30年4月17日(火)

(2) 実施項目 ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査 国語、算数・数学、理科

国語及び算数・数学については、

主として「知識」に関する問題(A)

主として「活用」に関する問題(B)

理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体として行う。

(イ) 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する質問紙調査

学校を対象に、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備にかかる状況等に関する調査

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位：人)

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	理科	質問紙
小学校6年生	3,735	3,738	3,737	3,739	3,738	3,737
中学校3年生	3,450	3,454	3,458	3,455	3,456	3,452

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位：%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
神奈川県(公立)	70	54	64	52	60
藤沢市(公立)	67	51	62	50	59

全ての教科において神奈川県及び全国の公立小学校の平均正答率をやや下回っています。

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位：%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
神奈川県(公立)	76	62	66	48	66
藤沢市(公立)	76	63	67	49	66

国語B・数学Bについては、神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率をやや上回っており、国語A・数学A及び理科については、神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率と同程度となっています。

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

(出典：平成30年度全国学力・学習状況調査報告書 文部科学省 国立教育政策研究所)

4 教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント

【小学校 国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと
- 話し合いの参加者として、質問の意図を捉えること

<課題があるとみられる内容>

- 漢字を文の中で正しく使うこと
- 目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むこと
- 文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く

<課題に対する改善の手立て>

- 漢字の指導に当たっては、繰り返し練習することにとどまらず、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中で使い分けに着目できるようにしていくことが大切です。他にも、漢字の成り立ちや部首の意味など、漢字への理解を深める学習につなげるために辞書を置くなどの環境を整えたりすることも大切です。朝の活動の時間等を利用して既習漢字を使って短文づくりをしたりするなど、短時間で継続的に行うことが効果的です。さらに、書く活動とも関連付け、文章を推敲する際に見直すなど、文や文章の中で使おうとする習慣を身に着けることが重要です。
- 高学年になると本を中心とした資料から、新聞・雑誌・インターネットなど情報収集の範囲や活用方法が広がり、目的に応じて適切な本や資料を選んだり、効果的に読んだりすることが重要です。そのためには、目的をもって主体的に本や文章を読もうとする意欲を育むことが大切になります。そのことにより、書き手によって取り上げ方・捉え方・描写などが異なることを知ることができ、その特徴をふまえ、選ぶ・読むことが可能となります。
- 自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分に伝わるように書くためには、得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係づけて捉えたりすることが大切です。書き手によって取り上げ方・捉え方・描写などが異なるため、その特徴をふまえ、複数の情報から選ぶことや、資料を読むこと、また、得た情報をどのようにまとめ伝えるのか、だれに伝えるのか等、相手を想定して書く活動につなげることが重要です。特に書くことでは主語・述語といった基本の形から修飾語・被修飾語の関係、「どのように」「なぜ」といった文の構成、書き言葉の敬体など系統的に学習していくことのほか、自ら書いた文章を推敲し読み直す学習が重要です。

【小学校 算数】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること
- 図形の基礎となる「角」の概念である 180° の角の大きさを理解すること

<課題があるとみられる内容>

- 小数の除法の意味について理解すること
- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360 度になっていることを記述すること
- 複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現すること
- 複数の情報を関連付けて論理的に考察し、根拠を明確にして数学的に表現すること

<課題に対する改善の手立て>

- 数量を的確にとらえ、序数がより小さい小数である場合でも、除法が用いられることを理解することは重要です。この場合、問題場面を図や数直線などに表し、数量の関係を的確に捉え、立式する活動が有効です。問題場面を表した、テープ図と数直線を合わせた図を比較した上で、割合に当たる大きさを求める場合には乗法、1に当たる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるようにすることが大切です。
- 図形の構成要素や性質を基に、筋道を立てて考え事柄が成り立つことが説明できるようにすることが大切です。指導に当たっては、設問に出てくる式や数が何を表しているものであるのか問いかけ、説明し合うような活動が有効です。また、式と図を関連付けて説明できるようにすることが大切です。
- グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読みとることができるようにするために、他の人が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるようにすることが大切です。メモがグラフをどのような観点で捉えたものであるのか、どの部分に着目して情報を読み取ったものであるのか意見を出し合う活動が有効です。
- 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を解釈し、関連付けて論理的に考察し、判断の理由について根拠を明確にして説明することができるようにすることは大切です。日々の授業の中で、答えの意味など根拠を明確にするように促し、児童が自らの考えをわかりやすく伝えようとする態度を育成することが重要です。
- 正答率が低い問題では、無解答の多さが目立ちました。取り組んだことのない問題や難しいと感じる問題に出会ったときに、今まで学習した中で似たような問題を思い出して活用することができるように取り組むことが大切です。普段の授業の中で、用いた数や式にどのような意味があるのかを考え、根拠を明確にしながら説明ができることが必要です。

【小学校 理科】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって野鳥のひなを観察できる方法を構想すること
- ろ過の適切な操作方法を身につけていること
- 2つの異なる実験方法から得られた結果を分析して考察すること

<課題があるとみられる内容>

- 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること
- 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること
- 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること

<課題に対する改善の手立て>

○実験結果を基に分析・考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにすることが重要です。そのためには、自分の予想にとらわれずに事実と解釈の両方を表現することで、よりの確な説明になることを捉えられるようにすることが大切です。また、解釈した内容が問題とあっているかを確認したり、事実（条件と結果）とその解釈（結果から考えられること）の両方を整理して説明するなどの学習活動が有効です。

○実験結果を見通して解決の方向性を構想できるようにするためには、自らの予想や仮説を基に実験計画を立案し、実験を行う前に、結果を見通すことが重要です。

そのためには、既習の学習内容や生活経験と関連付けながら、根拠のある予想や仮説を設定し、図などで表現し、それを基に話し合う学習活動が大切です。また、それぞれの見通しを話し合う場面を取り入れ、児童が他者の予想の内容も捉えつつ、見通しをもって実験を構想できるようにすることも有効です。

○実験結果を基に分析し、問題にあったまとめができるようにするためには、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠として考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討することが重要です。

そのためには、得られた結果を事実としての確にとらえ、事実から解釈したことを「実験結果から言えること」として言及することが大切です。また、より妥当な考えに改善していくためには、問題解決の様々な場面で自分の考えを表現したり、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動も有効です。

【中学校 国語】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 文脈に即して漢字を正しく読むこと
- 慣用句の意味を理解すること
- 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること

＜課題があるとみられる内容＞

- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと
- 全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと

＜課題に対する改善の手立て＞

- 目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するよう指導することが重要です。また、文章と図表などが示されている際は、その関連を捉えたり、書き手の意図やその効果を考えたりするように指導することも大切です。
- 説明や発表などをする際には、話の全体として伝えたいことを明確にし、それをわかりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えるように指導することが大切です。また、聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それらを踏まえながら話すように指導することも重要です。例えば、話し手と聞き手だけでなく、その場の様子を観察する立場を設け、発表の進め方等について、それぞれの立場から検討するなどの学習活動も有効です。
- 状況に応じて相手に伝わっているかを確かめながら話す場として、ペア、少人数グループ、全体の3つの場面設定が有効です。聞き手の人数や場の大きさによって話す速度や音量が違ふこと、聞き手の立場によって自分が分かっている言葉が通じないというような経験をすることで、目の前の相手にわかりやすく話そうとする態度や能力を身につけることが可能です。さらに、国語の授業以外の場面につなげていくことで、実践的な力として定着を図ることもつながります。
- 新学習指導要領では、語彙を豊かにする指導の改善・充実が求められています。生徒の語彙を、量と質の両面から充実させるためには、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、五感を磨き、語彙の質を高めることが大切です。文学的な文章を扱う学習で、登場人物の人物像などを四字熟語や慣用句を用いて表す活動や、気になった語句や馴染みのない言葉をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で使ったりする学習を行うことも有効です。

【中学校 数学】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 数直線上に示された負の整数を読み取ること、単項式どうしの除法の計算、簡単な比例式を解くこと
- 見取り図、投影図から空間図形を読み取ること
- グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること

＜課題があるとみられる内容＞

- 数量の大小関係を不等式に表すこと
- 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明すること
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること

＜課題に対する改善の手立て＞

- 事象における数量の大小関係を不等式で表せるようにするためには、事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表すとともに、文脈に沿って、「以上」、「以下」、「より大きい」、「未満」のいずれかを的確に捉え、不等号を用いて表現する活動を重視することが大切です。
- 新たに条件を加えた際に、見出した事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れることが有効です。また、付加した条件の下で、見出したことがらを数学的に表現し、それが正しいかどうかを証明できるようにすることも大切です。
- 様々な問題を数学を活用して解決し、説明できるようにするためには、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動が大切です。その際、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか話し合う活動や問題解決の方法を振り返り、互いの説明を比較検討したりする活動も有効です。
- 確率の意味について理解するためには、実験を通して、ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象が起こる回数の全体に対する割合が近づいていく値として、実感を伴って理解できるように観察や実験などの活動を取り入れることが大切です。その際、実験による結果を表やグラフにまとめる活動や実験結果を表したグラフからわかったことを数学的な表現を用いて説明するなどの活動も有効です。

【中学校 理科】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用すること
- 豆電球と豆電球型の LED の点灯の様子と電力との関係を指摘すること
- 初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用すること
- アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けていること

<課題があるとみられる内容>

- 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘すること
- 神経系の働きについての知識を身に付けていること
- 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること

<課題に対する改善の手立て>

- 水溶液の濃度を量的に扱うことは、水溶液における粒子の基本的な見方や概念を形成する上で大切です。指導に当たっては、特定の質量パーセント濃度の水溶液が必要な状況で、生徒が水溶液の質量から溶質と溶媒の質量を計算し、実際に水溶液をつくる学習場面を設定することが考えられます。その際、つくった水溶液が特定の質量パーセント濃度であるか、溶液と溶媒と溶質の質量の関数に注意しながら確認することが大切です。また、溶質と溶媒の割合の関数を視覚的に捉えることができるようにするために、線分図(テープ図)を利用することが考えられます。
- 動物が外界の刺激に適切に反応する仕組みを感覚器官、神経系及び運動期間のつくりと働きとを関連付けて捉える上で、感覚器官や神経系の基礎的・基本的な知識を習得することは大切です。指導に当たっては、外界からの刺激が受け入れられ、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応が起こることを、観察したり、落とされたものをつかむといったような実験を行ったり、日常の経験などを通して理解する学習場面を設定することが考えられます。
- 自然の事物・現象を科学的に探究する上で、「原因として考えられる要因」を全て指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験を計画することは大切です。指導に当たっては、はじめに「変化すること」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討します。次にそれらの要因を「変える条件」と「変えない条件」とに整理して、実験を計画する学習場面を設定することが考えられます。また、実験を計画するにあたっては、他の分野や領域で身につけた知識・技能も活用し、自然の事物・現象や日常生活で目にする事象を多面的な視野に立って考えることが大切です。

5 児童生徒質問紙調査に関する調査結果の特徴と改善のポイント

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

(1) 特徴

	質問項目	児童	生徒
学習に関する 関心・意欲等	理科の勉強が好き	77.1%	58.0%
	理科の勉強は大切だ	80.1%	61.1%
	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	57.2%	38.5%
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	65.7%	47.8%
	理科の授業で自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしている	47.1%	39.1%
	理科の授業で観察や実験の進め方や考え方について振り返っている。	57.7%	49.5%
	算数・数学の勉強が好き	60.1%	53.2%
	算数・数学の勉強は大切だ	89.7%	74.7%
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	57.9%	32.3%
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	87.3%	64.3%
課題解決学習	算数・数学の授業で公式や決まりを習うとき、その根拠を理解するようにしているか	75.2%	65.1%
	今まで受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた	72.2%	69.1%
	自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の構成などを工夫した	58.3%	57.3%
	級友との間で話し合う活動を通じ、自分の考えを深めたり広げたりすることができた	71.3%	72.8%
生活	朝食を毎日食べている	95.3%	90.8%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	76.0%	67.4%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	87.7%	84.2%
	放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たりゲームをしたりインターネットをしたりする	79.7%	81.4%
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする	81.9%	73.1%
	今住んでいる地域の行事に参加しているか	54.8%	32.0%

学習習慣・ 学習時間	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	62.1%	43.1%	
	家で、学校の宿題をしている	96.2%	86.3%	
	家で、学校の授業の予習・復習をしている	50.1%	43.1%	
	平日に学校以外で 勉強する時間	2時間以上	32.6%	50.4%
		1～2時間	24.4%	23.3%
		30分～1時間	25.0%	12.3%
30分より少ないか全くしない		17.9%	14.0%	
その他	自分には、よいところがあると思いますか	82.8%	76.8%	
	先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか	81.6%	79.0%	
	学校の決まりを守っている	85.4%	93.9%	

(2) 改善のポイント

「学習に関する関心・意欲等」については、教科学習を大切だと考える児童生徒が80%から90%と多いにもかかわらず、教科学習を「好き」と回答した児童生徒は60%前後という状況で、児童生徒が教科学習をもっと好きになれるような授業改善が求められています。また、教科学習で学んだことを実生活に結び付けて考えられる児童生徒が約32%～57%となっていることから、教科を学ぶことで生活が豊かになることが自覚できるよう、興味関心を持たせ、児童生徒が「わかった」と実感をもつことができるような授業づくりを行っていくことが大切です。

今回調査が行われた理科では、仮説や予想をたて、その根拠を説明したり、実験や観察から得た考察を発表したりする経験が少ないと感じていることがわかります。日々の授業の中で、実験の予想をたて、それを基に計画をたてたり、観察や実験の方法が間違っていないかを振り返ったりする活動を取り入れることが必要です。

「課題解決学習」については、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組みが進んでおり、伝えたり話し合ったりする中で、学びを深めていることが見られます。自信をもってより良い発表活動等がすすむよう、効果的な資料の提示の仕方や話し方、文の構成などを教えていく工夫が求められます。

「生活習慣」については、起床時間や就寝時間、朝食の摂取率など、基本的には落ち着いて生活ができています。しかし、ゲームやテレビ等の視聴、インターネットの使用については、割合が高くなっており、特に、中学生の割合は高くなっていますので、日常生活における情報通信機器等の使い方について、家庭への啓発を行い、使用に関する家庭内ルールを決めるなど、改善に努めることが大切です。

「学習習慣・学習時間」については、平日に学校以外で勉強する児童生徒が多いものの、30分以下の児童生徒も多くなっています。また、学校の授業の予習や復習をしている割合は低くなっています。基礎学力の定着という観点から、与えられた宿題をこなすだけでなく、計画的に家庭学習にも取り組んでいけるよう「生活習慣」同様、家庭と協力して改善していくことが必要です。

「その他」については、児童生徒が「自分に良いところがある」「学校の決まりを守っている」という意識が高く、先生にも認められていることがわかります。今後も児童生徒の良いところを認め、自信と意欲をもって学習や生活ができるよう、学校全体で指導していくことが大切です。また、学校から広く地域に児童生徒の実態を周知し、地域に開かれた学校づくりを行い、地域とともに児童生徒を育成していくことも重要なことと考えます。

6 考察

今回の調査結果から、国語では、「話すこと・聞くこと」についてはできていることが分かりました。算数・数学では、「混み具合の比べ方」や「空間図形を読み取ること」についてはよく理解できていることが分かりました。理科では、「結果を基に判断すること」や「動物の体のつくりの特徴や原子の記号の表し方」についてはできていることが分かりました。

また、国語では「書くこと」、算数では、「説明すること」が課題であることが分かりました。理科では、「分析・考察した内容を記述すること」や「自分や他者の考えを検討して改善すること」に課題がありました。

この現状を踏まえ、授業においては、児童生徒が思考し表現する場面を多く取り入れることが必要です。基礎的基本的な学習においても、教師が教えたことを児童生徒が覚えるだけではなく、児童生徒が自ら考え、課題を解決に導くよう、学習の過程を大切にすることが重要です。その中で、児童生徒がお互いに自らの考えを根拠をもって説明し合うような場面や、その考えが正しいか否かについて検証し合うような場면을日常的に設定していくことが必要です。さらに、考えたことを表現する方法として、発言や記述はもちろん、児童生徒が、自分の考えを整理し視覚化する思考ツールを活用することが有効です。そのことにより、教師が児童生徒の考えを見とることに役立ちます。児童生徒の実態に合った方法を各学校で工夫し、教科の枠を超えて、児童生徒が思考・表現するような取り組みを進めることが求められます。

また、課題を提示する際には、複数の情報を関連付けて考える必要性のある課題を設定し、問題解決に向けて、複数の情報の中から必要な情報を選ぶ力をつけていく必要があります。

今回、小学校においては、何とか課題に取り組もうという姿勢は見られたものの、無解答率が高い傾向が見られました。日々の授業の中で、新しい学習に入る際には、児童とともに、どのようにしたら、今まで学んだことを活かして解くことができるのか、解決の見通しをもって取り組むよう指導していくことが大切です。その際、全体で一斉に取り組むだけではなく、時には個人で、時には少人数のグループでの学習活動を取り入れ、一人ひとりが、取り組んだことのない問題に出会ったときに、似たような問題を思い出して活用したり、簡単な問題に置き換えることで解決につながる見通しを持てたりするように、日々の授業の中で指導していくことが大切です。

児童生徒質問紙から、「自分には、よいところがあると思いますか」において、肯定的な回答の割合が高くなっており、今回新設された質問である「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」に対しても、肯定的な回答が多く見られました。今後も引き続き、児童生徒が自分自身の良い面に目を向け、自信をもって意欲的に学習に取り組めるよう、学校全体で児童生徒の良さを大切に、認め、日々の教育活動に取り組んでいくことが大切です。

また、教師が、授業の中で、児童生徒の良さをどのようにみとるか、どのような姿を見だしそこに価値づけをしていくかが求められています。授業改善のヒントは、子どもの姿にこそあるのだという意識を改めて持ち、目の前の児童生徒の実態を把握し、児童生徒の目線から授業づくり、授業改善を図っていくことが重要です。

7 今後の教育活動に向けて

新しい学習指導要領の全面実施に向けて、小中学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業づくりをより充実させることが重要です。そのためには、ミドルリーダーが中心となり、教職員同士が価値を見いだし、共有し、楽しみながら意欲的に校内研究を進めるよう、学校全体で取り組む必要があります。

さらに、小中合同の研修や教職員同士の交流の活性化を図り、9年間を見通した教育連携の充実を図っていくことが大切となります。

(1) 教育委員会における今後の取組

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、引き続きの課題が見られることから、改善に向けた工夫や取組の必要性を学校に対して働きかけていきます。

ウ 一人ひとりにきめ細かな支援等を行う「支援教育」の考え方に基づいた「わかる授業づくり」や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導主事による指導を行います。

また、教員のキャリアステージごとに経験者研修を実施するとともに、指導主事や学校人材育成支援員による教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ 教育文化センターにおいて、「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、授業力向上にむけたスキルアップを図ります。

オ 好ましい生活習慣の確立は、学力と密接な関係があることから、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、計画的に家庭学習に取り組んでいくことができるよう、保護者に向けて、家庭での時間の使い方の改善について働きかけを行います。

(2) 学校における今後の取組

ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ 児童生徒への調査によると「算数・数学や理科が好き」「学んだことは生活の役に立つ」という意識が低い傾向にあります。児童・生徒の生活経験をもとにした授業展開を工夫し、興味関心を高め、わかりやすい授業・たのしい授業を目指します。

ウ 課題の解決に向けて自分で考えたり、自分の考えが伝わるよう工夫する姿勢に改善が見られています。引き続き、主体的に活動する児童生徒の育成を目指し、話し合い活動や学び合う学習活動を意識し、どの教科・領域等においても、児童生徒が主体的に学習に参加し、自分の考えを広げたり深めたりすることができるような授業づくりを進めます。

エ 児童生徒一人ひとりが自分にあった学習方法を見つけ、自分で計画した自学自習を進められるよう、そのきっかけをつくり、学習の手立て（学習の方法）を指導します。家庭と連携しながら、自ら計画を立てて予習復習を行う学習習慣の確立や生活習慣の改善に向けた取組を行います。

保護者の皆様へ

児童生徒質問紙の内容から、学習習慣や生活習慣についてご家庭において考えていただきたいことが見えてきました。お子様と話し合う時間をとっていただき、日々の生活を見直してみてください。

○学習習慣について

学力の向上のためには学校での学習を行うだけでなく、家庭での学習が必要です。家庭学習の際には、教科書を基にした学校の授業の予習、復習を取り入れるよう、また、お子様が自分にあった方法で主体的に学習に取り組めるよう、励ましの声かけをするようにしてください。

○生活習慣について

日々の充実した学校生活の基盤として家庭での生活習慣は大切です。朝食の摂取や起床時間については、良好な結果がみられました。中学校では、就寝時間にやや課題が見られます。今後も、基本的な生活習慣の定着に向け、ご協力をお願いします。

また、放課後の時間の使い方について、テレビやビデオの視聴、ゲームやスマートフォンの使用にあてる時間の長いお子様が依然として多く見られます。家庭での時間の使い方について、話し合ってみてください。